

薩摩郷句

兼題「息」



やかましで寝息く聞てかいぬしとじあわ
（唱）この頃ら女房が印すしつ寝つ

諸木小春

写真撮いよと見愚渠満
（唱）皺も延びつて良か態で写つ

西ノ園ひらり

ボーナしでやつと息くちたローン漬け
（唱）今夜ステーキじやつち言て出勤つ

東京ん衆息くすい間も無態で走つ
（唱）ほかいじやいが心配しゃんな

北村虎玉

中学の制服身につけ握手する
孫に夫は「成人式のようだ」と
（唱）淡き陽をうけて父との散歩道
（唱）桜の並木は続く

山下初枝

（唱）わが心桜吹雪にさよめられ
（唱）春の海タノンカー一隻動くなし

中崎ハナエ

桑畑のスプリンクラーや忘れ霜
三浦倫子

わが心桜吹雪にさよめられ
（唱）春の石蕗煮る指先を渋に染め

内田ちどり

坂元つる子

桜鯛つれしを甥の待ちくるる
（唱）花吹雪浴びで母子の散歩かな

春の石蕗煮る指先を渋に染め

内田ちどり

坂元つる子

（唱）その姿よし味はことさら
（唱）内田ちどり

春の石蕗煮る指先を渋に染め

内田ちどり

坂元つる子

（唱）内田ちどり

春の石蕗煮る指先を渋に